

雨の絵 滝沢 具幸

今朝は音もなく雨が降っている。雨は庭の木々の葉にも草の上にも落ち、紫の露草も濡れて、静かに白い雫を光らせている。梅雨の季節となった。雨というのは何か私たちにさまざまな想いを抱かせる。間断なく落ちる雨のリズムは人の心を落ち着かせ、自分を振り返る時を与えてくれるように思う。湿潤な風土に生まれ育った私たちは日常生活の上で雨と深く関わっている。それ故雨に対して抱く思いはことのほか深い。古来より、雨は文学作品や歌にも詠まれ、絵画に描かれてきた。私個人の思い入れもあるが、雨を描いて浦上玉堂の右に出る画家はいないと思う。昨年、久しぶりに見

た浦上玉堂展の「山雨染衣図」や「半空煙雨図」「春山染雨図」など直接雨をテーマにしたものに限らず作品に漂う雨情の深さは見る人にとりこにする。私は玉堂作品の魅力は墨によるその筆触にあると思う。点や線の筆間に潜む水の気といったものである。中国山水とはまた違った水墨画である。また菱田春草も雨の絵を多く描いている。「雨山路」や「雨後」「五月雨」など朦朧体によって穏やかな雨の風景を描いている。その他、福田平八郎の瓦屋根に降る「雨」のモダンで印象的な作品、富田溪仙の「吉野彩雨」など思い出す。浮世絵では歌川広重の近江八景の図の「唐崎夜雨」や東海道五十三次の「庄野」であろう。広重は木版画

という技法で雨を表現するため、雨脚を画面の上から下まで絹糸の簾のような連続線で埋め尽くし雨を表した。ゴッホがその絵を見て目を見張った様子が想像できる。私事で恐縮であるが1983年、私は「雷雨」という200号の作品を描いた。夕立雲の動きと大地に大粒の雨がたたきつけて過ぎる様子を作品にした。あるとき、その絵を見た知人から、昭和36年伊那谷を襲った「三六災害」を思い出すと言われた。自身の作品の良し悪しは別として、激しい雨の情景もまた日本の気象の特質であると思う。

インフォメーション ⑦→⑨月

●美術博物館

お問い合わせ：0265-22-8118

◎特別展示

水谷章人写真展 7/14(土) → 8/26(日)
-スポーツ報道1968～2007 アスリートの記憶-

◎企画展

中央アルプスを歩く 7/21(土) → 9/30(日)

◎平常展示

菱田春草と飯田の美術 4 9/1(土) → 9/30(日)
花鳥風月を愛でる 9/1(土) → 9/30(日)

◎常設展示特別公開

武田信玄と伊那谷 8/1(火) → 9/30(日)

◎プラネタリウム

夏の番組「ワンピース～宇宙って面白いわ! 星空島編～」 → → 9/2(日)
秋の番組(未定) 9/8(土) → 12/2(日)

◎特別展講演会

世界のスーパースターを撮る 7/15(日) 13:30～

◎ミニシボ「伊那谷・木曾谷の活断層と中央アルプス」

7/22(日) 13:30～
①中央アルプスと伊那谷の活断層
②木曾谷の活断層と巨大崩壊

◎映写会・講演会

飯田大火60年 -大火前後の貴重な映像を見る- 7/29(日) 14:00～

◎美博特別講座「旅の美術史 -芸術の移人と定着-」

信濃への旅 -円伊筆一編上人絵伝- 7/21(土) 13:30～
二科会草創期の画家たち -有島生馬・坂本繁二郎・正宗将三郎を中心に- 9/15(土) 13:30～

◎自然講座

信州、山と花の旅 7/5(木) 19:00～
中央構造線の新しい知見 7/19(木) 19:00～
中央アルプス千畳敷の水河地形と土石流 8/17(金) 19:00～
生きた化石 ヤツガタケトウヒとヒメバラモミ 8/24(金) 19:00～
観光と自然保護③ -地域の自然資源の生かし方- 9/20(木) 19:00～

◎美博文化講座

飯田下伊那の地場産業 7/1(日) 13:30～
やさしい仏像の見方 -動物を従える神仏たち- 7/24(火) 19:00～
伊那谷の武将と武田信玄 8/19(日) 13:30～

◎子ども博物館くらぶ

子ども美術学校 7/8(日)・8/25(土)・9/30(日) 13:00～
子ども科学工作教室 -天体望遠鏡を作ろう- 7/28(土) 10:00～
宇宙をのぞこう (親子で学ぶ天文講座)
・流れ星を探る -流星塵を探そう- 7/14(土) 15:00～
・太陽の黒点を探そう 9/29(土) 15:00～
夏休み自然相談教室 8/5(日)・12(日) 9:30～
※8月12日には化石レプリカ作成を実施します。
◎ミュージアムコンサート 7/20(金) 18:30～
◎第2回 美博まつり 8/11(土)
◎皆既月食観察会 8/28(火) 18:30～
◆臨時休館日 7/10(火)・13(金)

◎上郷考古博物館

お問い合わせ：0265-53-3755

◎ぎやまん工房 8/5(日) 9:30～
◎縄文土器をつくってみよう 7/1(日) 9:30～
◎夏休み原始体験 7/29(日) 9:30～
◎大人の土器作り教室 -縄文土器を作ってみよう-
焼成 9/30(日) 9:30～
◆臨時休館日 7/29(日) 午前中・8/11(土)・9/5(木)

◎追手町小学校 化石標本室

お問い合わせ：美術博物館へ

◎公開日 7/22(日)・28(土)・29(日)・8/4(土)・5(日)・12(日)
・8/14(火)・15(水)・19(日)・9/23(日) 10:00～16:00
◎化石クリーニング 7/29(日)・8/15(木) 10:00～16:00
◎化石レプリカ作成 7/22(日)・8/12(日)・14(火)・19(日)
・9/23(日) 10:00～16:00

❖寄贈品御礼

「職人尽絵巻巻」、近藤信尹筆「書巻」ほか
松居佳代子様 ありがとうございます。

2007 VOL.077

テラス

◎飯田市美術館ニュース◎

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" Vol.077

発行：飯田市美術館

http://www.iida-museum.org/



特別展示 飯田市制 70 周年特別展

水谷章人写真展

— スポーツ報道 1968~2007 アスリートの記憶 —

① 7/14(土) → 8/26(日)

飯田市出身の水谷章人氏(1940年生まれ)は、日本のスポーツ写真界のバイオニアであり、国内屈指のスキー、スポーツ専門のフリーランスカメラマンとして、世界的に活躍している写真家です。個展の開催や写真集・写真著書など著作物も多く、1981年に第12回講談社出版文化賞、2002年に第3回飯田市藤本四八写真文化賞を受賞し、本年には2007年日本写真協会賞作家賞を受賞されています。現在は日本スポーツプレス協会会長や日本写真著作権協会理事など公職を歴任される一方で、後進の指導にも熱心に当たっておられます。

今回の展覧会は、水谷氏が40年間撮影し続けてきたスポーツ報道写真の中から、世界のアスリート(競技者)たちの緊迫した一瞬と、スターの肖像をとらえた写真を厳選して展示します。展示アスリートは、長嶋茂雄、王貞治、ペレといった懐かしい往年の選手から、現在活躍中のイチロー、松坂大輔、ロナウド、

タイガー・ウッズ、さらに浅田真央、宮里藍ら進境著しい若手まで、およそ100人です。この企画を通して、スポーツの歴史を振り返るとともに、世界的に活躍しておられる当地出身者の業績を紹介いたします。(桜井)

◎付属事業

特別講演会「世界のスーパースターを撮る」
日時/7月15日(日) 13:30~15:30
講師/水谷章人先生
聴講/無料



① イチロー (2002年)



① ロナウジーニョ (2005年)



① マリア・シャラポワ (2004年)

第2回 美博まつり ワークショップ

天然素材の虫除けづくり

② 8/11(土)

プーンという蚊の羽音、たった一匹でも耳で聞こえると心が落ち着かなくなりますよね。もしそれが100匹ほどまとまって襲ってきたとしたら、あなたならどうします?

私が毎年昆虫の調査に訪れている日本海の向こう側ロシア沿海地方では、こんな場面に遭遇することが稀ではありません。森の中で虫を探しながら歩いていて、ふと足を止めて振り向くと、後ろから巨大な蚊が黒い雲のようになって迫ってきたりします。ある時は、体長1mmほどのヌカカという吸血昆虫(刺されるとひどく痒くて腫れる)が、隙間が無いくらい手にびっちらりとたかったこともありました。

こんな嫌われ者の蚊ですが、実はメスしか吸血しません。吸った血は全て卵巣の発育のための栄養として使われます。飛んだりするためのエネルギーは、花の蜜や果物の糖分で補給しているそうです。オスは産卵しませんので、もちろん血も吸いません。

血を吸う相手は呼吸などで吐き出される二酸化炭素を頼りに発見し、近くに来ると体臭、体温、湿気、色などを手がかりに刺しに

8月11日(土)におこなう「美博まつり」では、アロマセラピストの上河内陽子さんの指導で、天然素材を使った虫除けづくりが体験できます。レモングラスやユーカリシトロードラ、パインなどのアロマオイルの香りや成分は、虫除けの効果が高いといわれています。

「美博まつり」ではその他にも、学芸員が中心となって15以上のワークショップを企画中です。家族そろってお出かけ下さい!(四方)



② 昨年のお祭りまつりの様子

きます。お酒を飲んだり汗をかいたりすると刺されやすくなるのは、二酸化炭素の量が増えたり、動きが鈍くなったりするためです。蚊を防ぐには、肌の露出を少なくすることがもっとも効果的です。しかし、顔や手などは隠すことができません。そこで、私たちは「虫除け」を使います。

企画展

中央アルプスを歩く

③ 7/21(土) → 9/30(日)

中央アルプス(木曾山脈)は伊那谷と木曾谷とを分ける南北80kmの山脈です。北アルプスや南アルプスと比べると、規模が小さく1本の主稜線からなります。前山がなく主稜線と里との距離が短い

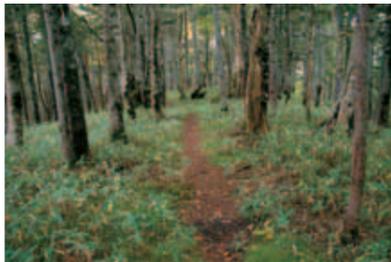
ことから、数多くの急峻な河川を特徴としています。そのため、昔から三十六峰八千溪と呼ばれてきました。伊那谷の山麓には、これらの河川が土砂を押し出してできた扇状地が、いくつも重なっています。

南北に細長い中央アルプスには、その東西の麓に長大な逆断層がとおっています。これらの断層は、政府の地震調査会によって詳しい調査がなされました。その結果、伊那谷断層帯と木曾山脈西縁断層帯は、ともに日本の活断層の中では地震の発生確率が高いグループに入りました。また、扇状地堆積物の調査から、中央ア

ルプスは70万年前頃から急速に高くなったことが分かっています。中央アルプスは、両側にある断層によって持ちあがった新しい山脈で、現在でも成長している“生きた山脈”だったので。

一方、中央アルプスは低山から高山まで人々と深い関わりをもっていました。つい最近まで、里に暮らす人々は里山に芝刈りに通い、高山に現れる雪形を種まきの目安にしてきました。しかし、風化しやすい花崗岩と急峻な河川は、ときには里に土石流という猛威をもたらしました。昨年7月の豪雨災害のような山くずれや土石流災害は、数十年毎に起こっています。

展示では、まず中央アルプスの形と成り立ちを解説した後、北から南へと中央アルプスを歩きながら自然と人との営みを見えます。最後に塩尻市善知鳥峠から恵那山までの中央アルプス稜線歩きの記録を紹介します。中央アルプスのすばらしさは、高山帯だけではありません。南北80kmにもわたってさまざまな魅力があることを知っていただけたらと思います。(村松)



③ シラビンの深い森に覆われた中央アルプス南部



③ 両側の谷頭侵食でやせ細る中央アルプス中部主稜線
駒ヶ岳周辺は山頂部に侵食小起伏面が残っているため穏やかな地形であるのに対し、空木岳~南駒ヶ岳間は東西からの侵食が稜線に達しているため入り組んだ荒々しい景観を呈しています。



② ヒトの血を吸う蚊



表紙の作品/菱田春草「春秋(楓に鳩)」
明治43年(1910)
絹本着色 144.5x71.7cm
本館蔵

菱田春草36歳の時の作品。朦朧体期や外遊期の没線主体の描法を越え、琳派研究などにより日本画独自の表現へと変化している。黄色く色づいた楓にアオバトを描いている。